

## 加藤会計通信

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

### 深呼吸

元日、ニューイヤー駅伝の結果を見た後、コタツでお正月番組をぼんやり見ていると、それぞれの携帯電話から緊急地震速報が鳴り響き、それから大きな揺れ。テレビは地震中継に切り替わり、津波の速報とアナウンサーの避難を呼びかける大きな声をずっと聞いておりました。

二日は、羽田空港の事故で飛行機が燃える姿を、三日は、地震の被害状況がだんだんと明らかになってくるのをテレビで呆然と見ておりました。

お正月気分とは程遠い、暗い気持ちのお正月でした。今後、一人でも多くの命が助かることを祈るばかりです。

それでも、緊急地震速報の精度の高さ、迅速に津波から逃げるように呼び掛けるアナウンサー、高速道路と新幹線の復旧のスピードは、素晴らしいと思えました。

なによりも、羽田空港の事故において、一人も死者を出さずに、乗客全員が避難できたことは、過去の反省を活かして、普段から真剣に準備し、訓練を積み重ねた地道な努力の結果ではないかと思えます。

表舞台に立つことなく、裏方で努力されている現場の方々に敬意を表したいと思えます。

今年はどんな年になるのでしょうか。

一月の台湾総統選挙に始まり、十一月のアメリカ大統領選挙など、世界中で選挙が行われることとなります。二月には前橋市長選挙もあります。ゼロ金利が解除され、金利が正常化する。さらに、人工知能の開発が進み、世の中に実装されてくることが予想されます。とても大きな変化が起こりそうな年です。

それでも、まずは深呼吸。その後、事に当たろうかと思えます。

令和6年1月4日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

### 品質不正

一流メーカーの品質不正が相次いで報道されております。規模の大きさや、行われてきた期間の長さに驚くばかりですが、新聞や第三者委員会の調査報告書などで品質不正の経緯を知ると、他人事ではないような気がしてきております。

日本の品質不正の特徴は、明確な犯人がいないことだそうです。数年前のフォルクスワーゲンの排ガス不正では、経営者の指示のもと、組織的に違法なソフトウェアを搭載して、試験のデータをごまかしていたそうです。この場合、今後不正を起こさないようにするためには、経営者を入れ替えれば良いのですが、日本の場合にはそう簡単ではありません。

日本の品質不正は、明確な指揮命令のもと行われるのではなく、現場で、いつのまにか、誰からともなく始められ、代々後輩へと引き継がれていくことが特徴だそうです。

最初は、「あまり良いことではないかもしれない、でもこれくらいなら許されるだろう」から始まり、繰り返すうちに、「昔からそうだから」「みんなやっていることだから」という同調圧力に変わり、それが組織の常識になっていくのだと思います。

これはとても怖いことで、どこの会社でも起こりうることに思います。長く同じ組織に属して、長く同じ取引先を担当して、長く同じ仕事をしていると、本人の悪意がなくとも、会社の常識が世間の非常識になっている可能性は大いにあるのではないのでしょうか。

これは、組織に長く居る人間には、なかなか難しい問題です。期待するのは、外から来た人間です。私は、若者がその役目を担っているのではないかと思います。若者の、素朴な意見こそ、耳を傾ける価値があるように思うのです。

令和6年2月1日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

### 不適切

「不適切」という言葉をよく聞くようになりました。

不適切な発言、不適切な会計処理、不適切な関係など、何か不都合なことが起きたときの説明によく使われております。

聞いている側からすると、それは違法なのか、不正なのか、それとも間違いなのか、単なる勘違いなのか、全く理解できないのですが、なんとなく良くないことが起きたのだな、程度の理解に落ち着くこととなります。

説明する側からすると、起きてしまった不都合なことに対して、とりあえず、謝っておくときに便利な言葉として使っているようです。

起きてしまった不都合なことの真相がまだよくわからないときに、とりあえず「不適切」という暫定的な評価をしておいて、その後詳細な調査をしたうえでちゃんと評価する、という使い方が正しいように思うのですが、実際はなんでもかんでも「不適切」というぼんやりとした枠の中に入れておいて、世間からの批判をやり過ごすために使われているような気がします。

「不適切にもほどがある」というテレビドラマが話題になっております。セクハラ、パワハラなんでもありの昭和のおじさんが、令和の現代にタイムスリップして不適切発言を繰り返すのですが、それがかえって、コンプライアンスで縛られた現代人に新鮮な気付きを与える、といった内容のコメディドラマです。

心で思ったことをそのまま口にすることがとても難しくなった世の中で、本当のこと、ものごとの本質を、躊躇うことなく断じる昭和のおじさんに爽快感を感じてしまいますが、現代社会の表舞台では生きていけないでしょう。

それでも、本当のことを言わなければ前に進めないときも、たまにはあります。そのときは、「不適切」な発言がありましたと、深くお詫びをさせて頂きたいと思っております。

令和6年3月1日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

事務所の桜のつぼみが、ひとつずつ開いております。

### 新年度

新年度になりました。世の中がうねるように変化しているなか、それに伴って制度も次々に変化しているように思います。参考のため、4月から変わることを簡単にまとめてみました。

- 値上げ
  - 4月の食品値上げは2806品目(帝国データバンク調査)。なお、前年同月は5404品目。また、電気ガスの負担軽減措置について、5月使用分までで一旦終了する予定
- 普通預金の金利引き上げ
  - メガバンクでは、0.001%から0.02%へ
- 企業の交際費の非課税上限額を、一人当たり5,000円から10,000円に引き上げ
- 運送業、建設業、医師の時間外労働の上限規制
- 公的医療保険75歳以上の医療保険料増加
  - 2024年、2025年と2年をかけて、全体平均で5,200円の引き上げ
- 相続登記の義務化
  - 所有者不明の土地をなくすため、相続したことを知ってから3年以内の登記申請が義務化
- 給付型奨学金の支援対象拡大
- 定額減税
  - 令和6年分の所得税と住民税を対象に、一人当たり40,000円の減税が実施されます。6月から支払う給与に対する源泉徴収税額から、減税額を差し引く事務手続きが始まります。減税対象者の確定など、煩雑な事務作業が想定されます。早めのご準備を。

令和6年4月1日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

### 基本に戻る

休日を利用して、家族で東海村にある原子力科学館に行ってきました。原子力科学館は、放射線や原子力について、子どもでも楽しく学ぶことができる施設です。小4の息子も興味深そうに学んでいる様子でした。

その原子力科学館の別館の片隅に、JCO臨界事故についての展示がありますが、私には、その内容が印象に残りました。

覚えている方も多いと思いますが、この事故は、1999年にJCO社のウラン加工工場で起きた臨界事故です。作業員の方3名が重篤な放射能障害で入院し、そのうち2名が死亡。150人が被曝。半径350m以内の住民が避難、半径10km以内の住民が屋内待避しました。

ウランの加工という危険な作業であるため、作業方法を変更するには、本来科学技術庁の許可が必要なのですが、作業に手間が掛かるため、マニュアルを勝手に変更して社内マニュアルを作成。さらに、社内マニュアルもまだ不効率だとして、現場ではさらに変更を加え、ウランの危険性を理解していれば絶対にあり得ない工程を作り上げ、事故を引き起こしたのだそうです。

核分裂の連鎖反応が臨界現象であり、瞬間的に大きなエネルギーを発散させれば原子爆弾になる。その危険性をちゃんと理解していれば、このような変更は恐ろしくてできないはずです。

自分の仕事が世の中でどのような意味を持つのか。仕事の失敗でどのようなことが起こるのか。最初に学ぶべき仕事の基本です。作業効率も大事ですが、一番大切なのは、基本を忘れないことではないでしょうか。

このような事故は、どんな組織でも起こりうるのだと思います。科学館の片隅にあった展示で、背筋が寒くなる思いをしました。

令和6年5月1日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

# 加藤会計通信

## メンタル

中央線で東京の水道橋駅を通り過ぎると、今でも胸が締め付けられるような感覚がよみがえってきます。水道橋駅には、公認会計士受験の予備校があり、3年間、暗い受験生活を送った場所だからです。勉強しても、勉強しても、成績が上がらず、先の見えない真っ暗なトンネルを歩くような日々でした。

そんなとき、予備校で変わった先生に出会いました。その先生は、授業を公認会計士の勉強ではなく、メンタルトレーニングの講義から始めました。当時は現在のように心理学の知識は一般的ではなく、気合と根性でなんとかする時代でしたので、最初は、怪しい宗教の勧誘のようなものかと思ってしまいました。

それでも、藁にもすがるような気持ちで先生の講義を聞いておりました。その時の講義メモは、大事に残してあり、今でもたまに見返すことがあります。以下は、その講義メモの抜粋です。

### 努力逆転の法則

無意識と意識は無意識が勝つ。意識が無意識に勝つためには、2倍ではなく、2乗のエネルギーが必要。意識と無意識が同調すれば、パワーは和ではなく積である。そして、無意識はメンタルトレーニングによって変更可能である。

### 青のイメージ

深呼吸。鼻で吸って、口で長〜〜く吐く。4、5回繰り返す。受動的に。目を閉じて、海の中にもぐって海面を見上げているような、青のイメージを持つ。手のひらを重ねて、暖かさを感じるようになるまで続ける。

### 行動が動機を支配する

1. 体、目、息
2. 笑顔
3. エアロビック

令和6年6月3日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

1月から6月まで、駆け抜けてきた繁忙期がようやく終わりました。

### 株主総会

5月、6月は3月決算の会社の株主総会が開催されます。職業柄、多くの会社の株主総会に出席させて頂きました。

株主総会は、株式会社の最高意思決定機関です。会社のオーナーである株主が、会社の決算や役員の人事を承認する場です。昨今では、株式市場の国際化の影響からか、いわゆる「モノ言う株主」が増えてきたようです。

先日、ある会社で株主提案が議題として取り上げられました。（1%以上の議決権、または300個以上の議決権を6か月前から引き続き持つ株主は、株主総会に議案を提出することができます。これを株主提案権と言います。）

株主提案の内容は、簡潔に言うと、「ちゃんと利益をあげて、しっかり配当して、株価を上げてください」といった内容です。株主総会の場では、株主提案をされた株主から、厳しい経営環境、低迷する株価への対応の必要性について、厳しい指摘がなされました。

質問が終わり、採決に進むかと思われたとき、一人の株主が立ち上がり、心に残る意見を述べられました。

「会社には、数値に現れない価値がある。それは、信用と信頼です。この銀行は震災のとき、唯一会社を支えてくれた、雨の日に傘をさす銀行です。この経営方針をこれからも大事にしてほしい」

会社にとって、利益をあげて株主への還元を厚くすることも、リスクをとって得意先を守ることも、どちらも重要です。さらに、従業員の方々の生活を守ること、地域社会に貢献することも、全て重要です。皆に支持されて初めて会社は長く存続できる、そして、それが会社の存在する理由なのだと思います。なぜ会社が存在するのか、考えさせられた株主総会でした。

令和6年7月2日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員

## 加藤会計通信

異常だと思っていた暑さが、日常になりつつあるように思います。

### 脳みそ

34年間、加藤会計事務所に勤めて頂いた、戸所が7月をもって勇退となりました。多くの方々にお世話になりましたことを、心より感謝申し上げます。

戸所は、いつも「会計全書」(会計税務の法規集。分厚くて、とても重い。)を持参しており、調べ事の際にはいつも会計全書をひらき、税法の条文を確認しておりました。税務の仕事の根拠は条文ですので、当たり前のことなのですが、なかなか継続できることではありません。日本語とは思えないような難解な条文を読みこなすためには、地道な努力が必要なのです。

先日、社内でDX人材を育成してみませんか、という営業電話があり、少し興味があったので話を聞いてみました。内容は、土業の事務所でchatGPTを活用している事例が増えているので、御社でもどうですか、というものでした。

私の常識では、会計税務の判断をする際に、根拠が確かではない人工知能を利用するのは、判断を誤るリスクが大きい。そもそも、自分の手で書籍を調べ、条文にあたり、頭でよく考えて判断をするプロセス自体が、会計人材の成長に不可欠なのではないか、という思いがありましたので、営業の方にそのような反論をしたところ、人工知能というのは、専門知識のない普通の人でも専門家のような仕事ができるようになるためのツールだ。あなたの考え方は古いのではないですか、といったようなことを、やんわりと言われてしまいました。

その後不安になって、実際にchatGPTを使って、税務に関する質問をしてみたところ、かなりの精度で細かい質問にも答えてくれました。

自分の脳みそと、人工知能をどのように使い分けていくのか、答えはこれから探っていく他ないのだと思います。ただ、知識と経験と感性が交じり合った自分の脳みそへの自信が、戸所のような信頼の篤い人間を形づくるのではないかな、と思っております。

令和6年8月1日

税理士法人加藤会計事務所  
代表社員